二十一世紀の新しい石神井

石神井高校同窓会誌
「きずな」 第52号
平成15年5月発行
石神井高校同窓会発行

校舎改築計画のあらましをご紹介

本校校舎の改築工事の概略がいよいよ決まり、三月二十七日に地元・近隣住民を対象とした校舎改築計画説明会も開かれました。現状では建設業者の決定前なので、建設予想図は作成されていませんが、都と本校の計画による校舎の配置図や外観図などが公開されました。

都の財政の厳しいおり、改築計画の中には、とりいれられなかった要望もありますが、都立高校の統廃合の進む中での全面改築は本校の他にはなく、いずれにせよ、平成十八年の秋に、二十一世紀の石神井高校の新しい姿が姿を現すことになります。

（関連記事十ページ）

黒菱山荘改修工事終了

快適な山荘ライフを楽しめるようになりました

今年は6月28日に総会・懇親会開催!

同窓会費をお願いします

「きずな51号」から、同封した同窓会費の払込書は、コンビニエンスストアからも払い込みができる形式です。これにより多くの方がコンビニ経由で会費をお支払いいただくことができます。会費は今年も2,000円です。郵便局でもお振り込みいただけますので、御協力をお願いします。

ご注意
＊振込用紙での住所の変更ができなくなりました。ご面倒ですが、裏面記載の宛先に住所変更をお届けください。
＊50回卒業生のみなさん、同窓会費を納入する世代になりました。今年から振込用紙を同封いたしますので、会費（年2,000円）の払い込みをお願いいたします。

自分の期の幹事をご存じですか？

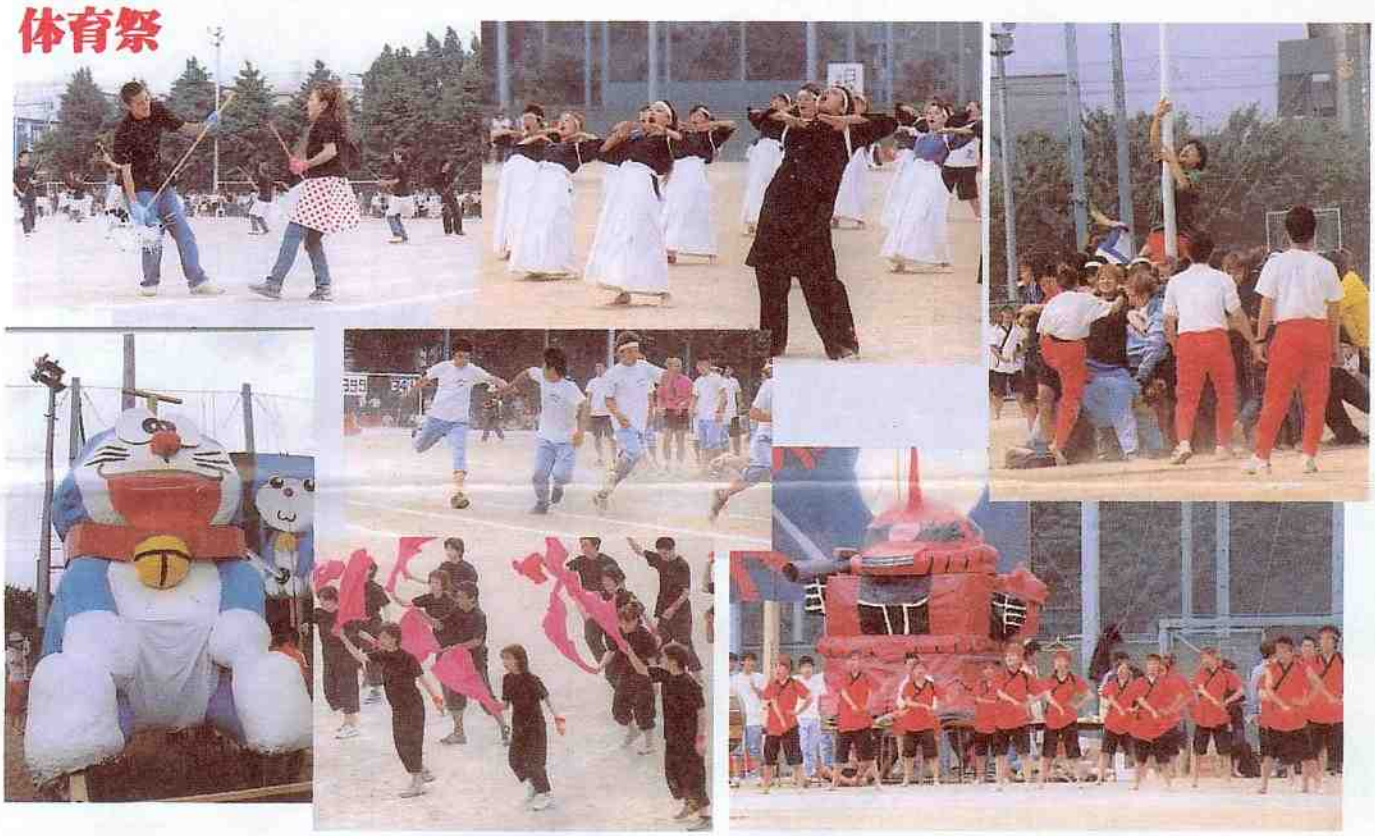
石神井高校同窓会は、いろいろな行事を担当する役員会と、各卒業期ごとの幹事からなる幹事会が両輪となって運営されます。しかし、幹事が不明確であったり連絡の取れない場合があり、その卒業期は同期会などの連絡の幹事が不在になっていることがあります。関連5ページに各期別の幹事リストを掲載しますので、ご自分の期の幹事を確認してください。

PhotoCalender2002 to 2003

石神井生は今年もがんばりました！

写真提供：道家正昭さん（高21）

体育祭



文化祭

校歌祭（応援出演！）

「初心に帰って」

同窓会会長　林　弘

本年は、年初から天候不順でしたが、会員の皆様方におかれてはご清栄のこととお慶び申し上げます。

都立高校改革推進計画の成り行きを気にしておりましたが、本校単独で校舎の改築が決定し、平成十八年度には新たな校舎が完成するとのことです。学校側の御努力により、本校の伝統ある校風を次代に継承されることを同窓生の皆さんと祝福したいと存じます。

現在、構造改革推進計画で、大学、特殊法人等の独立法人化が進められておりますが、私が縁あって携わっている機関もその対象となっており、仕事の進め方について先人から教えられたことを思い出し、心新たにしたいと思いましたので次に列挙しました。

一、一番問題なのは人間関係です。往々にして「建前と本音」のあることもあり、相手の立場を理解することが必要です。相手の話しを十分聞く耳をもつこと。これには話のしやすい雰囲気を作り、感情を交えず冷静に対話することや、非常に難しいことですが自分と相手の立場を入れ替えて考えることなど、事の本質を的確に把握する為にも、人間的触れ合いの出来るよう努力することが肝要と思います。

二、仕事の段取りは、従来の経験を組み入れた脚本を描き進めることがよいと思います。

①何が問題であるか浮彫りにする。②それらに関するあらゆるデーターを集める。③データーに基づき計画を立てる。④実行する。⑤計画通り遂行されたかチェックする。これは「科学的な物の進め方」として品質管理の基本として教えられたものですが、全ての仕事に当てはまることと思います。

三、報告のまとめとしては、中学時代「教練」で教わった「斥候の任務」の報告、「いつ」「どこで」「何が」「何ほど」「何をした」の五項目を当てはめて報告をまとめれば先ず間違いはありません。この話、昭和四〇年代に職場でした時、若い人達から「斥候」って何んですか」と質問があり、当時TV映画で「コンバット」を放映していたので「コンバット」と云うと納得していました。日本は平和だと当時つくづく感じたものでした。

私は経験論者ではありませんが、常々、経験は貴重なものであり尊重すべきものと心得ており、「人間の心は白紙である。経験というものがその上に字を書いていく。」私の好きな言葉の一つです。

人間というものは弱いもので怠惰になりがちです。人前でもの言えば責任が生じ、意地でも頑張らなければなりません。私自身の矛盾と確認のための叱咤として理解していただき、本稿をお許しいただきたいと存じます。

同窓会活動に関しましても勿論前述の気持ちをベースに努力することは当然と心得ておりますので、会員各位におかれましては、従前にも増してご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

母校の改築

校長　小林和夫

同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より母校に温かいご支援とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。おかげさまで本校改築計画も一〇年、二〇年先の将来像を見据えて順調に進められております。

校長室に昭和二三年当時の石神井高校を正門からみた校舎の写真があります。現同窓会林会長は、この校舎並びに学校施設を精一杯活用して、若いエネルギーを発散させていたとのことでした。その当時の、あるいは、その後次々に本校で学んだ卒業生の皆様が築いてまいりました、よき校風と伝統の上に立って、石神井高校は発展の一途をたどり今日を迎えています。学校は今、大がかりな全面改築工事を直前に控え、昨年度は基本設計、今年度は実施設計、来年度早々にはプレハブ仮校舎の架設工事、夏休み以降は旧校舎の解体工事が始まる予定です。改築工事が完了する平成十九年一月（校庭、外構工事は十九年度まで）には、内容外観共に、一新されるはずであります。充実した学校施設を活かし、先輩諸氏の築かれた伝統を受け継ぎ、さらに発展させていく覚悟でおります。

「同窓は遠くにありて思うもの」と前高橋勇同窓会会長がかつての「きずな」で述べておりました。私の母校は統廃合により無くなり、まさに、高橋前会長の言葉を身にしみて実感しています。母校での教え子と会うたびに、昔のことを思い出しながら、話に花を咲かせていました。その話をしている真剣な表情が印象的でした。どの仲間をみても、自分の歩いてきた人生に誇りを持っているからこその思い出であると感じました。私たちは古いことを知り、古いことを大事にして、受け継いでいかなければなりません。それが伝統であり、そのためには自分の過去に誇りを持てる人間でなければならないと思います。

石神井高校が誕生して六十三年の歳月を経て、二万人余の卒業生が巣立っていきました。新校舎建設のため、古い校舎をはじめ、思い出の数々が消えて行くと思いますが、皆様にとっては青春の思い出に満ちたふるさとであり続けます。

今後とも、母校へのより一層のご支援をお願いいたします。

着任の挨拶

教頭　榎本　善紀

荒川工業高校定時制から、このほど着任しました。石神井高校は、教室やグランド、体育館で、授業や部活にいそしむ生徒たちの元気な姿が見受けられます。活力に満ち、そして礼儀正しい生徒たちに感心しています。

また、校門正面の三本の楠の大木に象徴される石神井高校の伝統も息づいています。卒業生の皆さんが築いてこられた体育祭や文化祭も継承されています。多くの人材を輩出した本校も、校舎改築を機に、新たな発展を目指さなければなりません。

生徒の活力と本校の伝統を糧に、石神井高校のさらなる発展を実現する将来構想を描きたいと考えています。卒業生の皆様にも、学校の教育活動へのご支援をお願いいたします。

定期総会開催のお知らせ

同窓会規約第九条にもとづき平成12年度定期総会を下記のとおり開催しますので、召集いたします。

平成15年5月吉日　同窓会会長　林　弘

記

日時　平成15年6月28日(土)　午後1:00より
場所　母校会議室
議事　第1号議案　平成14年度事業報告（下図参照）
　　第2号議案　同上の会計収支決算報告
　　及び会計監査報告
　　第3号議案　役員選任議案
　　第4号議案　平成15年度事業計画案（下図参照）
　　第5号議案　同上の会計予算案

以上

平成14年度事業報告　平成14年4月1日～平成15年3月31日

〈平成14年(2002年)〉
4月　母校入学式に会長が来賓として臨席する。
5月11日(土)　役員会 ☆会計報告と次年度予算案
☆総会の役割分担　☆黒菱山荘基金
5月　同窓会会報誌「きずな」第51号を発刊し会員に送付する。
6月15日(土)　平成13年度定期総会及び母校の恩師を招いての懇親会を開催する。定期総会議事はすべて原案どおり可決承認される(議案は「きずな」に掲載)。
10月5日(土)　第10回東京校歌祭(日比谷公会堂)にブラスバンド有志を交えて参加する。

〈平成15年(2003年)〉
3月　母校卒業式に会長が来賓として臨席し祝辞を述べる。

◎例年どおりの定例事業を行います。
☆会報「きずな」第51号(カラー印刷ページ入)を発行します。
☆インターネットに「石神井高校同窓会ホームページ」の開設を継続します。
☆総会終了後の懇親会を実施します。
☆第11回「東京校歌祭」に参加します。会員各位の多数参加を期待しています。

決算報告書

平成14年(2002年)度　会計決算
(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

収入の部	平成11年度実績	平成12年度実績	前年度実績(平成13年度)	本年度予算案(平成14年度)	本年度実績(平成14年度)	対予算実績	対前年度実績増減	備考
ｱ. 繰越金	443,209	311,769	429,709	440,408	440,408	0	10,699	
ｲ. 入会金	1,386,910	1,414,939	1,449,370	1,424,370	1,424,370	0	▲ 25,000	285名
ｳ. 年会費	3,799,200	4,436,080	4,193,810	4,000,000	3,754,960	▲ 245,040	▲ 438,850	前年総額実績 4,193,810円
ｴ. 雑収入	161,853	392,532	161,319	125,000	197,963	72,963	36,644	
収入合計	5,791,172	6,555,320	6,234,208	5,989,778	5,817,701	▲ 172,077	▲ 416,507	

支出の部	平成11年度実績	平成12年度実績	前年度実績(平成13年度)	本年度予算案(平成14年度)	本年度実績(平成14年度)	対予算実績	対前年度実績増減	備考
運営基金積立繰入	0	500,000	0	0	0			
A. 総会費	760,385	1,295,310	867,328	700,000	633,882	▲ 66,118	▲ 233,446	総会、懇親会
B. 本部費	105,708	100,810	292,897	250,000	210,278	▲ 39,722	▲ 82,619	役員会開催
C. 幹事会費	0	25,600	88,037	80,000	50,060	▲ 29,940	▲ 37,977	幹事会開催
D. 広報費	1,601,548	1,547,267	1,696,086	1,750,000	1,599,874	▲ 150,126	▲ 96,212	きずな印刷代
E. 発送費	1,859,077	1,797,191	1,878,513	1,900,000	2,043,595	143,595	165,082	きずな発送代、インターネット代
F. 行事費	242,685	259,433	224,464	230,000	261,698	31,698	37,234	校歌祭参加費用
G. 山荘費	650,000	600,000	600,000	600,000	600,000	0	0	山荘運営
H. 高校援助	260,000	0	0	150,000	0	▲ 150,000	0	部活動等表彰（該当なし）
I. 新会員				120,000	118,786	▲ 1,214	118,786	新卒業生入会祝い(注)
J. 予備費	0	0	146,475	209,778	35,386	▲ 174,392	▲ 111,089	基金振替 35,386円
支出合計	5,479,403	6,125,611	5,793,800	5,989,778	5,553,559	▲ 436,219	▲ 240,241	
繰越金額	311,769	429,709	440,408		264,142			

注。H13年度新卒業生入会祝いは予備費より支出
平成14年度運営基金積立残高　15,132,819 円

上記の通り、平成14年度会計収支を決算し報告します。
道家 正昭　押切 裕子

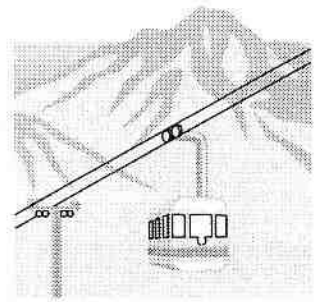
上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。
川口 弘　森 雅夫

平成15年(2003年)度　予算案
(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

収入の部	前年度実績(平成14年度)	平成15年度予算案	対前年度実績増減	備考
ｱ. 繰越金	440,408	264,142	▲ 176,266	
ｲ. 入会金	1,424,370	1,379,370	▲ 45,000	新入会員 276名
ｳ. 年会費	3,754,960	3,600,000	▲ 154,960	
ｴ. 雑収入	197,963	125,000	▲ 72,963	
収入合計	5,817,701	5,368,512	▲ 449,189	

支出の部	前年度実績(平成14年度)	平成15年度予算案	対前年度実績増減	備考
運営基金積み立て				
A. 総会費	633,882	500,000	▲ 133,882	総会、懇親会
B. 本部費	210,278	230,000	19,722	役員会、幹事会費用等
C. 幹事会費	50,060		▲ 50,060	幹事会費廃止
D. 広報費	1,599,874	1,600,000	126	きずな印刷代、インターネット代
E. 発送費	2,043,595	2,000,000	▲ 43,595	きずな発送費
F. 行事費	261,698	200,000	▲ 61,698	校歌祭参加費
G. 山荘費	600,000	500,000	▲ 100,000	山荘運営
H. 高校援助	0	100,000	100,000	部活動等表彰
I. 新会員	118,786	120,000	1,214	新卒業生入会祝い
J. 予備費	35,386	118,512	83,126	
支出合計	5,553,559	5,368,512	▲ 185,047	
繰越金額	264,142	0		

＊幹事会費は廃止され、本部費に統合されました。



同窓会役員のご紹介

石神井高校同窓会役員会では、一昨年より各事業部制をとり、それぞれの役割ごとに副会長をおいています。みな忙しい面々なので、分業制ということになるでしょうか。どうも同窓会役員会の“顔”が見えない、という声を聞きますので、「きずな」の紙面で役員をご紹介しましょう。

城 和裕・総会担当（高校十二回）

最古参の副会長です。とても忙しい身でありながら、黒菱基金で奔走されるなど、同窓会の縁の下（とは限りませんが）の力持ちです。（本人が恥ずかしがって、原稿をいただけないので代筆です。）

勝見 鈴代・企画担当（高校二十回）

なんのご縁か・・・同窓会活動にかかわってから、三年になりました。

現在、同窓会関連の企画を担当しております。同窓会活動を通して、何かを発進できたらなあ、といった気持ちからスタートしたのですが、「懇親会をもっと楽しく」、「さらに沢山の人たちがあつまるように」、「高校の文化祭へも参加したい！」、「ＯＢ達から在校生へのメッセージを伝えたい」などなど、いろいろ企画し反省してのゆっくりとしたステップで進行しています。企画アイデア好きの同窓生の方と、ぜひご一緒に石神井高校のさらなる発展を実現する将来構想を描きたいと考えています。卒業生の皆様にも、学校の教育活動へのご支援をお願いいたします。（本人談）

高橋一夫・行事担当（高校二十回）

同窓会役員で、副会長をやっています。担当は、主に「行事」で、校歌祭・山荘ツアーを企画、実施しております。

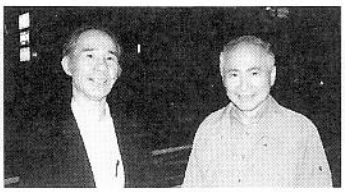
昨年は、長女が結婚し、花嫁の父を体験しました。趣味は、電車とハイキングなどです。皆さまの行事参加をお待ちしております。（本人談）

板谷 方彦・広報担当（高校二十七回）

広報部会の最大の責務は「きずな」を発行すること。公私の私はさておき、ともかく忙しい！で、「きずな」が遅れるわけです～（本人言い訳）

浦川 伸一・山荘担当（高校三十二回）

山荘委員会委員長を兼務して、最も若い副会長です。現役パリパリですから、当然超多忙。その中で山荘の維持管理などにがんばっているミドルエージ（同窓会の中では！）です。（もちろん、代筆）



森 雅夫・会計監査（高校八回）

川口 弘・会計監査（高校四回）

忘れていけないのが、地味な業務の会計監査。大変な作業を“笑顔でこなすいい男!?”

道家 正昭・会計（高校二十一回）

会計業務もさることながら、同窓会の写真をとってます。

石神井高校同窓会幹事名簿

中1　阿部 猛
中2　佐伯 博敏
中3
中4　浅野 兆正
高1　真家 俊雄
高2
高3　佐藤 健
高4　大阿久 靖男
高5　朝日 光子
　　池内 博子
高6　千賀 可一
　　成冨 峯男
高7　鶴岡 信行
　　榛葉 祥子
高8　森 雅夫
高9　石川 和寿
　　熊谷 弘
高10　出 基人
　　小澤 素行
高11　堀江 丹
　　松本 明生
高12　野澤 宏之
　　吉岡 幸子
高13　鈴木 洋二
　　野中 雄介
高14　青木 優好
　　杉本 幹男
　　棚橋 玲子
高15　松本 勝秀
高16　吉澤 敏也
　　山本 忠義
高17　手崎 政仁
　　大久保 利一
高18　鵜飼 明弘
高19　山下 章
高20　堀部 定男
　　野村 みさ子
　　曽田 みふゆ
　　高波 紀子
高21　佐久間 利和
　　廣瀬 満雄
高22
高23　吉岡 誠
高24　小林 信博
高25　高尾 宏一
高26
高27　西光寺 実
　　小林 紀子
高28　金田 喜明
高29　木本 恵美子
高30　本間 寛
　　加藤 純子
高31　成清 孝一朗
高32
高33　泉水 祐二
高34
高35
高36　松澤 洋子
　　左振 恵子
高37
高38　井上 光子
高39
高40　浜崎 隆光
高41
高42
高43　小野塚 直子
高44
　|
高53
高54　中平 勝

ここに掲出したのは、各期の幹事名です。（役員を除く）
空白の期は、幹事が決められていない期です。
同窓会の期別の連絡や同期会の手配などは、期ごとの幹事の役割なので、幹事がいないとスムーズな連絡体制などがとれません。空白期の方は、幹事を決定してくださるようお願いいたします。特に44期以降はまとまって幹事がいないので、これらの期のかたは、同期会開催時などに幹事を決めて役員会までご連絡ください。

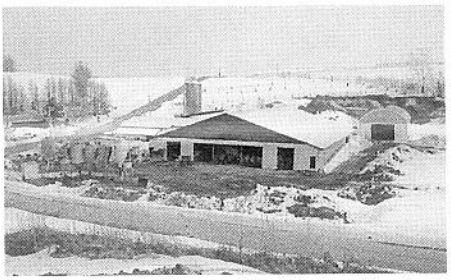
同窓生だより

日本での ダチョウ産業構築を目指して

小久保　謙（高校十八回）

主題に入る前に少し自己紹介をします。石神井高校を昭和四十一年に卒業して三十七年。同窓会には一回も出席せず、ただ前ばかり見て歩いてきました。在学当時はまだ新青梅街道すら出来ていなかったので畑に囲まれたのんびりした学生生活を水泳を楽しみに過ごしました。都内の大学に進み、またまたスポーツ三昧の四年間。就職に際して自分の気に入った仕事をしようと農業分野を事業に持つ会社に入社。これが私が将来を少し真剣に考えた最初の決断でした。二年の東京生活の後、札幌に転勤。ここから大きく動き出します。農業に間接的に関わる事から、直接農業をしようと方向転換。幸い学士入学が可能だったため、札幌近郊の畜産大学に編入学、酪農を学ぶ事にしました。卒業と同時にやはり石神井卒業生で現在の妻（旧姓　丸茂京子）と結婚し、北海道十勝にある酪農牧場に就職、三年後に現在地を買い求め就農。二十一年の月日を五人の子供たちと、たくさんの乳牛に囲まれ、面積は山手線の内側より広く二〇〇〇人が暮らす山里での生活です。

七年前からダチョウが加わりました。これは私だけでなく東藻琴村在住の農家、商家の方達と共同で始めた事業です。最近になって皆さんも時々ダチョウ牧場やダチョウの肉を扱うレストランなどの話題を見聞きする事が有るかと思います。実はダチョウは日本に無くてはならない畜産動物なのです。その実力のほどを少し御紹介します。英名オーストリッチは高級皮革製品ですでに有名ですし、羽もファッション、芸能関係では欠かせない素材です。食肉は新しい分野ですが、赤身でありながら鶏肉よりカロリーが低く、高蛋白、高ミネラルで癖の無い美味しさは、女性はもちろん、子供からお年寄りまでどなたにも楽しんでいただける食材です。こうした素材としての特徴も際立っていますが、どうしても日本で普及させたかったのは、その生態の持つ特徴が日本が抱えている幾つかの問題を解決してくれると考えたからです。その一つがダチョウの食性に有ります。草食で、飼料利用率が高く、繁殖力が高く、成長が早いという特徴から餌を海外からの輸入に頼らなければならない既存の畜産と違い、国産の牧草、桑などの植物、野菜屑などの有効利用で飼育出来ます。つまり食料自給率を高め、人と競合しない餌で飼育出来るのです。二つ目が糞尿の量が少なく土への負荷が小さく環境にやさしい。こうした特徴を持つ畜産動物は、日本の狭い国土を有効にしかも大切に利用し、次世代の子供たちへの大切なプレゼントになると思います。食料の安全性が問題視されていますが、まず国産である事、量の確保が大地を痛めず、人と共生でき、永続的な生産が可能であることは品質と供給量の両面からその安全性を確保出来る事になります。しかしこうした有効性が実際に生活レベルで受け入れてもらえる、またそれに見合った産業を育てる事は容易ではありません。現在私は日本初の家畜としてのダチョウ牧場をここ北海道で営む一方で、国内産業としての基盤を創るため、全国の生産者団体「日本オーストリッチ事業協同組合」の活動を、生産物の販売のための独自のチャンネル創りを「フライング・オーストリッチ株式会社」として東京で活動しております。時間はかかりますが仲間とともに一歩一歩確実に足元を固めながら産業構築を進めていきたいと思っています。



日本将来は、農業、食料生産の安定なくしては成り立たないと考えます。この分野を海外に委ねる事は、いくら貿易の中でお金を稼いでもあがなえることでもなく、またいつまでも輸入がふんだんに出来ると考えるのも危険でしょう。皆さんの農業への応援をお願いいたします。

なぜ農業に取り組むか、理由を聞かれて、理論的な説明は出来ても、あふれでるエネルギーの源を説明する事は難しい事です。しいて言えば「性に合っている」としかいようが有りません。20年以上農業者として生活する中で少しでも社会の役に立てれば幸いと考えます。農業は無から有を生み出し、循環してゆく唯一の産業です。過去の何世代もの努力が、また次の世代へと受け継がれていきます。その一こまを担える楽しさ味わい、また責任を果たさなければならないと考えています。

半世紀前の思い出

新井　良夫（高校五回）

当時私は「放送部」というクラブ活動に参加しておりました。部員の構成は「ソフト」（アナウンス・音楽・放送劇等）を担当するグループと、「ハード」（校内放送機器の製造／設置・メンテナンス等）を担当するグループに分かれておりました。「ソフト」グループは女子を中心としたグループ、「ハード」グループは男子のみのグループでした。

私の所属していた「ハード」グループについて、振り返って見たいと思います。

たぶん現在は、校内放送機器類は既製品を、また設置配線工事等は業者を利用

しているのではないかと思いますが、当時はすべて自作、それも入手可能な部品を基に設計から製造（組立）校内配線工事まで自分達で行いました。

しかし、校内放送機器はすべて音声周波数の低周波機器であり、我々の技術的興味はラジオ等の高周波に向いておりました。

当時の放送は、NHK-1、NHK-2、FENの三局しか無かった所に、民放が認可され文化放送・東京放送等が開局しました。民放が開局される前は、戦前/戦中のラジオ（ほとんどの家庭で使用されていた）でも十分実用になっていたものが、民放が開局されると旧型のラジオでは混信（複数の放送が同時に聞こえてしまう）がひどく、全く実用にはなりませんでした。混信のない新型のラジオ（新型といっても今では博物館入りの真空管ラジオですが）はメーカーの既製品では価額が一万円以上もして、経済的に余裕のある家庭しか購入することが出来ませんでした。

そこで、我々はそれを半値で請負生産をする自営のバイトをしました。これはかなり利益率の高いビジネスでもあり、高校生の割には懐は豊かでした。

我々の興味は低周波から高周波（ラジオ）に移ったものの、しょせん電波を受けると云う受動的なものであり、次のステップとして電波を出すと云う能動的な物に興味が変わって参りました。

合法的に電波をだすには免許が必要であり、アマチュア無線の戦後再開直後の事でもあり、免許取得のため、「ハード」グループの連中は学業そっちのけで夢中になったものです。その結果、現在では骨董的コールサインを持った者が続出しました。またこれに必要な無線機器取得（当然自作）の資金もラジオの請負生産のバイトで得た利益が大いに寄与しました。

最後に、「放送部」でのエピソードの一つをお話します。

今から五十一年前の昭和二十七年秋の運動会の時の事です。運動会と云えば運営の主役は運動関連部であり放送部は裏方の仕事。従って我々は拡声機器の設置程度がメインの仕事と簡単に考えておりました。ところが、運動会の一週間前になって当日停電するとの連絡が入りました。「拡声機器は電気が来なければただの箱」でしかありません。また運動会と云えば景気のよい行進曲が付き物です。テープレコーダー等はない時代です。音源の七十八回転のSPレコードを廻さなければなりません・電気が来なければレコードプレイヤーも動きません。

拡声器も音楽も無い運動会は考えられません。そこで、その対応策として、自動車のバッテリーで拡声機器が動くように部品・機材をかき集め、拡声機器の改造等にあたりました。またSPレコードを回すため、既に骨董的な存在の手回しぜんまい式の蓄音機（今では博物館の展示品）を利用する等の貴重な体験をしましたが、努力のかいあって　関係者以外、停電に気がついた者はおりませんでした。

以上、良き青春時代を振り返ってみました。

何度も立ち止まりました

長谷由子（高校二十回）

何度も立ち止まりました。これが自分の望んでいた場所なのだろうか？って。大学卒業後アナウンサーとして放送局に勤務し、その後、リポーター、キャスター、DJ，ナレーターといろんな仕事をしてきました。芽は出なかったけれど、女優業もちょっとだけやりました。数年前、舞台での語りに出会った時、自分が本当にやりたいことはこれなんだ！と思いました。語りとは、一つの物語を地の文から登場人物のセリフまで、全部一人で語るものです。緞帳があがり、たった一人で真っ暗な舞台に立つ時、孤独と恐怖で逃げ出したくなります。でもスポットがあたると、後はもう自分の世界。笑ったり、泣いたり、怒ったり、私は物語の世界で生きることができるのです。遠回りしたとは思いません。今まで迷ったり、悩んだりしたことが今の私の語りを造っていると思うからです。とは言っても、私はまだまだ発展途上。今日よりも明日、今年よりも来年、もっと観客に楽しんでもらえるような、贅沢を言えば、感動を与えられるような語りをしたいと、日夜苦しみながら（？）稽古を続けています。

長谷　由子　ナレーター

叙勲

古在　由秀氏（中一）（七十五歳）
勲二等瑞宝章を受章。東京大学名誉教授
元国立天文台長

村松　誠氏（中三）（七十三歳）
勲三等瑞宝章を受章。元全日本トラック協会副会長、元日本通運副社長

軽音楽部のこと

森田哲也（前軽音楽部部長）新卒業生

軽音楽部を引退してからもう半年以上も経つのに、どこかに自分がまだ軽音楽部の一員であるような気持ちが残っているのは、卒業してからも、ちょくちょく学校に顔を出しているから、というだけでなく、すでに自分自身の中に軽音楽部員である自分が、もう一生取れないくらいに染み付いているからなのだと思います。

今でも不思議に思うのは、今までサッカー、バスケ、陸上、と色々な事をやってきたけど、何か一つのことに、他のすべてのことを忘れてしまうくらいに打ち込む、ということのなかった自分が、なぜ他の何でもない「音楽」に文字通り「打ち込んで」来れたのか？ということです。

そもそも自分が軽音楽部に入ったのはとてもいいかげんな理由で、言ってみればその場の辛さから逃げるため、というか現実逃避みたいなものだったのですが、今になって考えてみると、そんないい加減さが自分には合っていたのかもしれない、とも思います。

そんな自分が2年になり、今でもどうしてなったのかわからないけど、部長に選ばれてからは、自分にとって軽音楽部がただの部活というものだけではなく、なんと言うか、少しずつ生命をもち始めたような、自分と一つになって行くようなそんな気がするようになって来たのを覚えています。

実際、部長になってから3年の引退日

である文化祭までの一年間は、自分はいつも軽音のことばかりを考え、いつも軽音と共に在りました。

もちろん楽しいことばかりではなく、辛いことも、泣きたくなるようなこともありました。

むしろ割合で言ったらそんなことの方が多かったと思います。一つの楽しいことの前には必ずといっていいほど十個位の嫌なことがあるような、そんなサイクルで毎日が過ぎて行ったけど、それでも何とかやって行けたのはやっぱり、自分が一人ではなかったから、それ以外にはありません。

この一年間に比べたら、今までの自分の人生は、手抜きをしてきたような、不真面目なさなぎのようなものであった気がします。だから過去の自分がどれほどのものだったかを知ったこれからは、人生最大の焦りとフラストレーションを感じた夏合宿と、一生分の涙を流し尽くした文化祭を心の糧に、すがりつくのではなく、胸の一番奥深くにそっとしまって、手探りにでもまっすぐに生きて行けたらな、と、そんな風に思います。

フリースクールまいまい

鴻池　友江（高校四十二回）

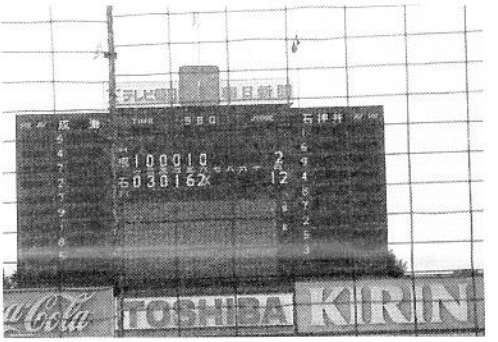
かねてから「島の環境が好き！島でフリースクールをやりたいな。」という思いを持ち、昨年八月一日に小学生以上の未成年を対象とした、登校拒否・不登校のための合宿型フリースクール「まいまい」を大島で開設いたしました。

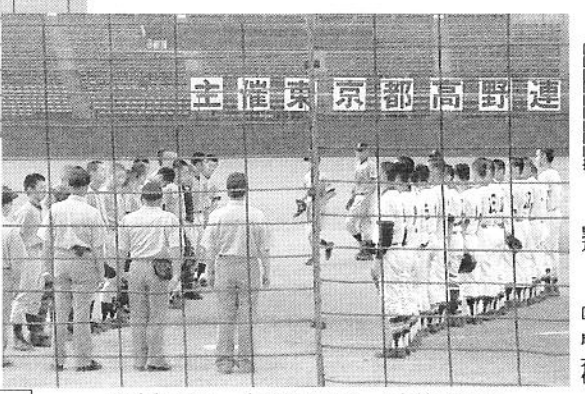
このフリースクールは、誰でも（大人も）参加出来る、島ならではの体験活動も随時受け付けております。ウインドサーフィンやダイビング・砂漠トレッキングなど楽しい事盛りだくさんです。ぜひ皆様もご参加ください。また、子ども達の合宿だけではあまる広さの施設ですので、一般の方の研修旅行や合宿にもお使いいただけます。素泊まり三千円のところを石神井卒業生は二千五百円でお使いいただけます。この機会にぜひ東京都の楽園、伊豆大島へのご旅行をご一考ください。

大島には、石神井の先輩方の偉大な業績（？）があります。元町港の壁画、元町の人気店「魚味幸」・・・。先輩方に比べ、私の一歩はまだまだ小さなものですが、いつか「おお、石神井ＯＢまた出たか。やるなー！」なんて言われるようになりたいです。（フリースクールまいまい　代表理事・心理相談員）

鴻池　友江（こうのいけ　ともえ）
NPO法人フリースクールまいまい
東京都大島町岡田新開２３７
Tel ０４９９２(２)９２２３
http://maimai.izu-oshima.info/
同窓会ＨＰでもリンク済み

石神井高校野球部、神宮の土を踏む！





第84回全国高校野球選手権で、石神井高校野球部は東京大会開会式直後の開幕戦に出場。あの神宮球場でプレイをする幸運に恵まれ、都立成瀬高校を相手に、6回コールド勝ちを納めるという快挙を飾った。

写真提供は　高波紀子さん（高校20回）

【石神井】

		打	安	点
投	林	3	0	0
捕	本田	3	2	0
一	中古	3	1	0
二	荒井	3	0	0
遊	岩見	3	2	0
右	櫂	3	3	1
三	出	3	2	0
左	村	3	1	1
捕	坂	2	1	0
球	球	2	1	1
場	場	2	1	1
併	併	2	1	1
殺	殺	2	1	1
残	残	7	2	1
		27	12	7

投手	回	安	自
野中	5⅓	10	
加藤	⅓	0	
林	6	9	

三	桂　野中　沼田
	岩見　白槻　櫂
成	1　畠野中　林
	加藤　関成 5
石	2ママ審判（球）
伊	藤藤（塁）酒宮
	玉置　新井香

都成瀬	１００００１０	２
都石神井	０３０１６２	１２（６回コールド）

イアン様と私

樋口　俊雄（高校十三回）

五月二十二日(木)快晴の日の夕刻六時、私はMulgrave Rdに面したCazaly Socialというスポーツクラブの前に立った。これからここで行われるオーストラリア・スィミング・ナショナルチームの歓迎夕食会に参加するためである。

一ヵ月半ほど前、知り合いの女性から

「イアン・ソープとのディナー会に参加しない？」

と誘われたとき

「会費は幾ら？何百ドルもするんじゃないの？」

と当然私は聞き返した。

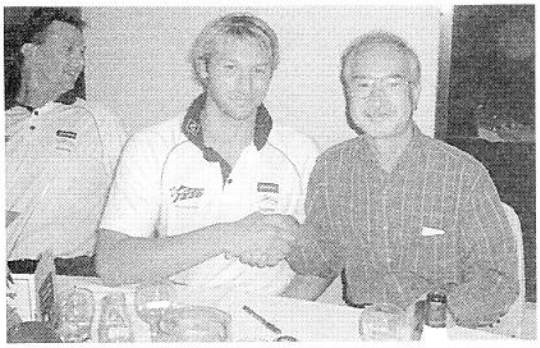
「いや、たったの六〇ドル（約5千円弱）」

と言われてとっさに

「えー！　そんなものに申し込んでも抽選に当たるわけないよ！何千人もの申し込みが殺到するに決まっているから」

と言ってしまった。すると

「抽選なんて無いの、ただ申し込めばいいの」



知り合いのその言葉に私はわが耳を疑った。半信半疑で

「それが本当なら凄いじゃない、それじゃ申し込んでおいてよ」

とは言ってみたものの内心“そんなうまい話があるわけないさ”

とほとんど信じていなかった。ところが翌日

「トシオ　パパ！チケット取れたよ！」

と連絡が入ってきた。

それから今日まで“本当にイアン・ソープがケアンズに来るのであろうか、そして我々と夕食なんかするのであろうか”と疑い続けてきた。そしてまだチケットも受け取っていないまま今、その会場と聞かされた場所の前に立ったのである。

会場に入ってみて驚いた。こんなところにこんなことが出来るスペースがあったのかという感じの会場だった。ただのラグビー場に併設された小さなスポーツクラブと思っていたが、結婚式の披露宴会場のように十人がけのテーブルと椅子が二十八卓用意されていた。単純計算でも二百八十人分のディナー会場である。一流ホテル顔負けの立派な宴会場であった。

その中の我々に割り振られた二十七番テーブルに座して小一時間、学生たちのバンド演奏が終わって、司会者の紹介に合わせてオーストラリア・スィミング・ナショナルチームのメンバーが次々と会場に入ってきた。そして驚いたことに、そのメンバーが一人ずつ各テーブルに着きだしたのである。グラン・ハケットが、ヒューゴが、マット・ウォルシュが、その他にも名前は知らないが見たことのある、オリンピックに出ていた顔が次々と各テーブルに座った。

我々のテーブルには十七歳の可愛らしい女子選手が来た。見たことがあるが名前は思い出せない。バック・ストロークの国内第二位の選手らしい。しかし見渡したがイアン・ソープの顔は見えない。私は隣席の友人に

「イアン・ソープはやはり客寄せだったんだよ」

とささやいた。ソープの大ファンの彼女は

「ちょっと見てくる」

と言って腰をかがめながら会場の中を散策に出て行った。

そしてしばらくして

「いたよ！いたよ！」

と叫びながら戻ってきた。

「一番端っこのほうにソープがいたよ！」

興奮気味にはしゃいでいる。

私は彼女の指差す方を半立ちになりながら見た。確かに会場の我々のテーブルとは正反対の端のほうのテーブルにそれらしき姿が見えた。しかし驚いた、国民的英雄のイアン・ソープが居るというのに周りの参加者たちは少しも騒いでいない。少なからずともイアン・ソープ見たさに今日のディナー会に参加した人はおおぜい居るであろうに。私はこんな遠くからはしゃいでいる日本人が恥ずかしかった。もちろん私も含めて。

友人の女性は又

「ちょっと写真とってもらえるか聞いてくる」

と言ってソープと同じテーブルに座っている日本人のほうに飛び出していった。そして嬉しそうに

「ディナーが終わったら写真をとれるように頼んでくれるだって」

と言いながら戻ってきた。

楽しくディナーを食べながら我々のテーブルの女子選手と談笑したり、記念撮影したりしてあっという間に時間が過ぎ去った。その間、司会者の紹介で幾人かの話題の選手やジュニアーの有望選手らしき選手が壇上に呼ばれてインタビューを受けていた。その中にはもちろんイアン・ソープ、グラン・ハケット、マット・ウォルシュらも含まれていた。

ディナーもほぼ終わり，司会者がオークションに出された写真や記念品を競売しだした頃、いよいよ我々はソープ様のテーブルに向かった。そこではやはりもう数人の人々が記念写真を取ってもらっていた。

まず大ファンの女性の友人がソープの隣に行き

「May I take a pictue with you?」

と頼むとソープ様はにっこり笑って

「Sure!」

と答えてくれた。隣に座った彼女とソープ様をファインダーに捕らえて私は慎重にシャッターを押した。次に彼女は

「トシオ　パパ　早く、早く！」

と私を呼んだ。はじかれるように私はカメラを彼女に渡すとソープ様の隣に座った。大きい！離れて見ているとそれほどでもないが、隣に座ると圧倒される存在感のある肉体である。思わず私は

「Nice meet you!」

と言って手をさしだした。いやな顔一つ見せずソープ様はその手を握り返してきた。とても大きな、思ったより柔らかい手であった。

「Thank you」

と言って立ち去る私ににっこり微笑んでくれた国民的英雄。なんという気さくさだろう。なんというおおらかさだろう。やはり驚異的な世界記録を連発するような超一流の運動選手は違う。本当に実感した。日本だったらきっと、大勢のセキュリティーにガードされ近づきも出来ないだろう。オーストラリアのおおらかさに感動さえ覚えた。

そのあと、彼女の希望でグラン・ハケット、ヒューゴとも同じように記念撮影をすることが出来た。これで五千円会費のディナーとは安すぎる。とても、とても有意義な一夜であった。

先生方の移動

前博之教頭
→雪谷高校へ

大月正先生
→羽村高校へ

佐藤要介先生
→農林高校へ

中野隆正先生
→ご退職

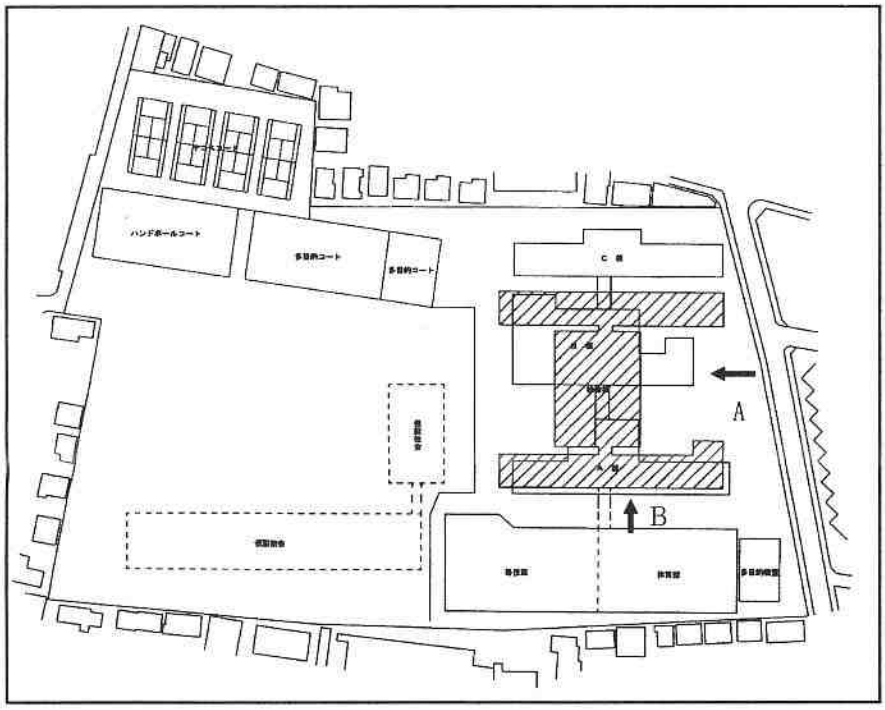
新校舎計画のあらまし

計画の概要は、現在のＡＢＣの三棟に別れている校舎を、やや太目の中央部を持つＨ型にするというもの。Ｈ型ともＩ型ともとれる形で、現在の三階と一部四階が総四階建てとなる。高層化した分、建物の投影面積は現在より小さくなります。そのため、玄関前が広くなったり、校舎北側に大規模な自転車置き場を設置する予定です。一般教室を南側の日当たりの良い棟に集中し、北側に各実験室や美術室などの特別教室が配置されます。また事務室や職員室・校長室などは中央棟に集中され、なかでも階段構造の視聴覚室は、ほぼ一学年全体が同時に講義を受けることができる規模となり、視聴覚というより次世代メディアを生かした授業や催事などに利用されることでしょう。

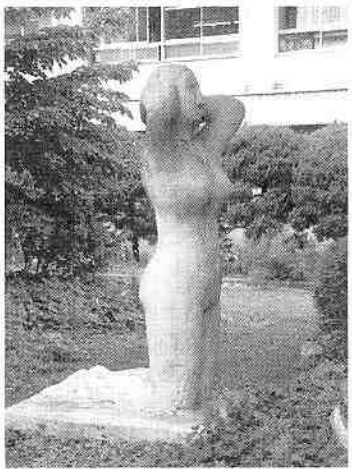
一方、プールを頭にした格技棟は小規模改修、体育館は大規模改修を施されるとのことで、校庭北西部のテニス・ハンドボールコートや多目的コートは現状のまま残されるようです。校舎の建替は、平成十六年度の始めからの仮設校舎建設から始まり、平成十八年度の晩秋に新しい校舎が完成するまでの三年がかりであり、来年入学の生徒は、一年の一学期だけが旧校舎、三年の三学期だけが新校舎、その間は仮設校舎という予定になっています。

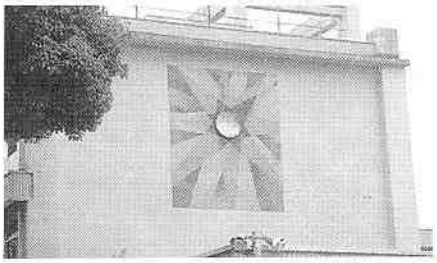
表紙の図版のように、石神井自慢の広い校庭に仮設校舎が建設されることになりますが、体育祭などはなるべくこれまでと同じように行いたいということでした。

全体として、現状の校舎より地上のスペースは増え、玄関前の植え込み・花壇なども復活するようですが、工事車両の通行や工事用スペースの関係で、現在の樹木は一部減らされることになりそうです。すでに校舎北側にあった桜の並木も近隣との関係で一部が伐採されており、かつては、応援歌にもあるように武蔵野の自然に囲まれていた本校ですが、家並みに囲まれつつある現在の立地条件では仕方のないことなのでしょう。



上図ＢおよびＡより見た方向の図

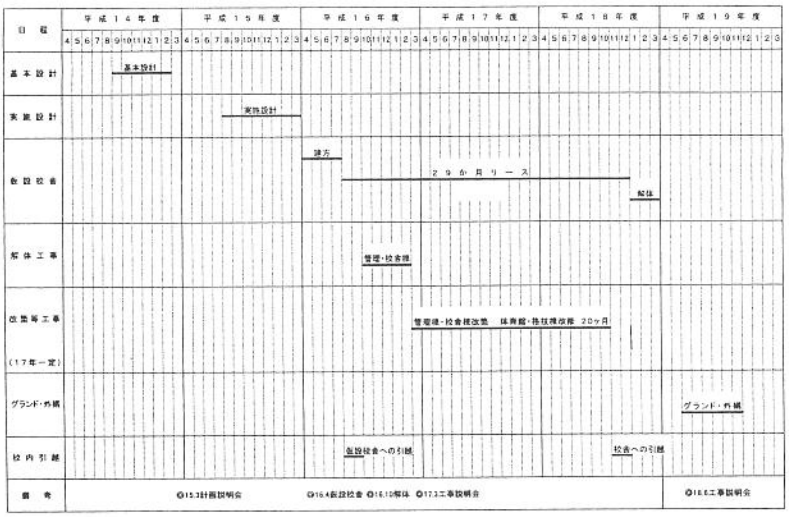


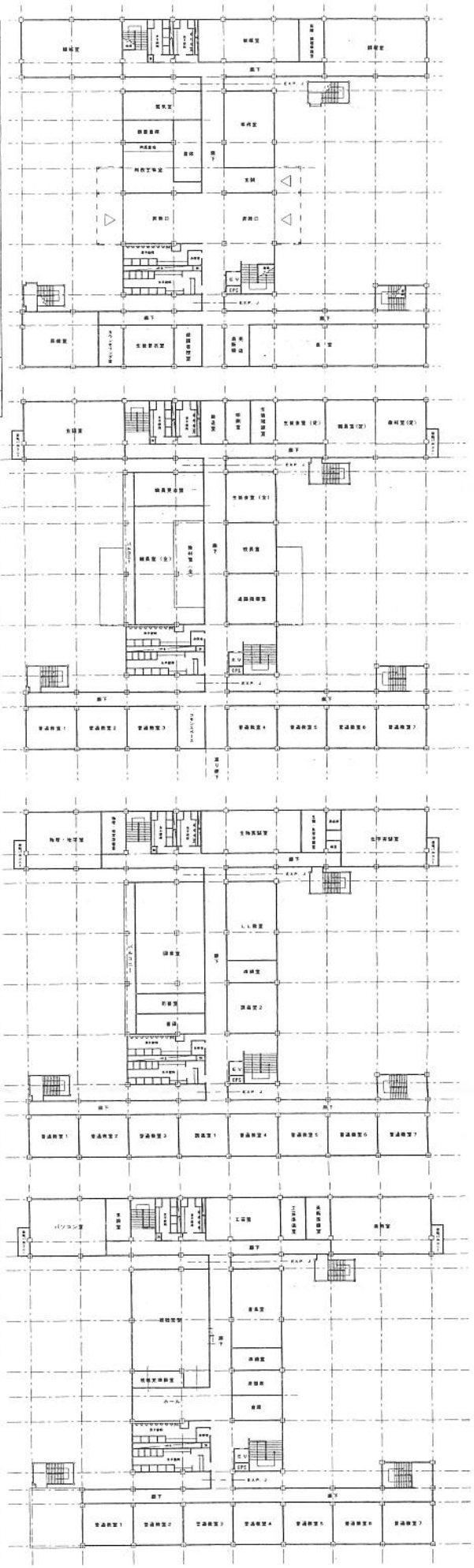


はてさて　石神井のモニュメント

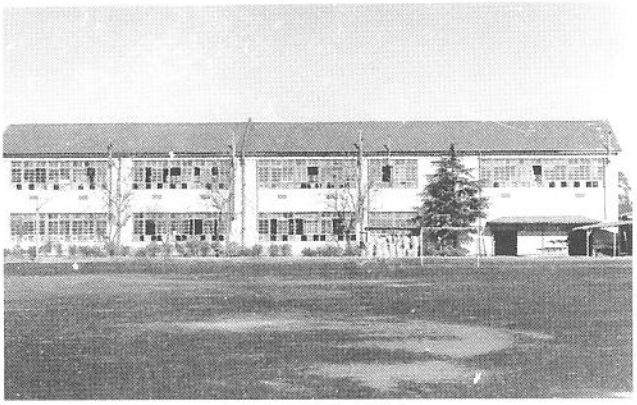
懐かしい校舎ですが、平成16年夏には取り壊しが始まります。見ておくならば、今のうち、かもしれません。

石神井高等学校　校舎改築工事計画（予定）

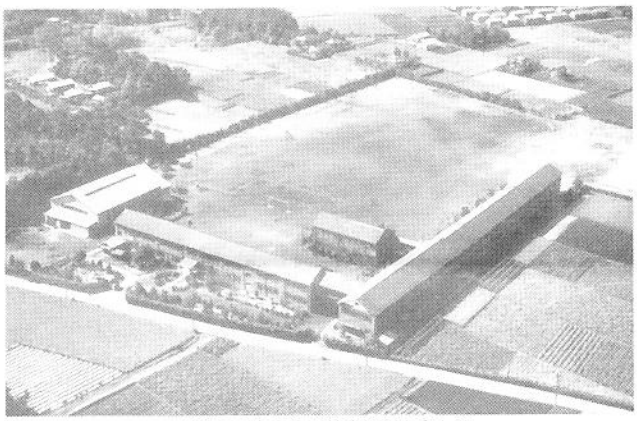




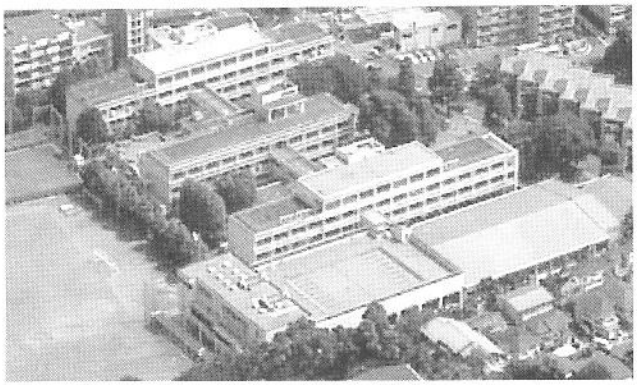
思い出の旧校舎



初代校舎を南から見る



昭和３０年の初代校舎東側上空より



現在校舎南側上空より

同期会報告・お知らせ

昨年から今年にかけて開催された、同期会・クラス会の報告と、これから予定している会のお知らせです。お問い合わせは、それぞれの期の幹事の方へ、直接お願いします。

石神井中学第一回生の会を開催

阿部 猛（中学一回）

旧制中学校第一回生の同期会を、二〇〇三年四月二十四日（木）午後一時半から、東京駅ルビーホールで開催した。恩師手崎政男先生をお迎えし、同期生六〇名が集まった。私どもは、昭和十五年四月、第一回生として新設の東京府立第十四中学校に入学し、青山五丁目の仮校舎で勉強を始めた。翌年太平洋戦争勃発、多難な学園生活を送った。学業半ばにして、陸・海軍に志す者、進学する者あいつぎ、学園を離れた時期はばらばらである（名簿は「準卒業」として扱われている）。全員二三〇人中、現在までに死亡が確認された者六〇名、消息不明の者四六人。当日元気で会に参加した者は六〇人であった。大多数の者は七五歳を超えた。歓談するうちに、かつての紅顔の少年の頃の面影がよみがえり、話は尽きなかった。お互いの健康を願い、二〇〇五年の再会を期して解散した。

中学第1期同期会

高校第三回生同期会

佐藤 健（高校三回）

平成十四年十月二十六日、南青山のNHK青山荘において、第三回生（昭和二十六年卒）同期会を参加者五十四人で開催しました。当日は、卒業時に担任だった手崎、寺島両先生をお招きし「恩師を囲む会」という形式の会合です。なお、石木先生は体調不良の由にてご欠席でした。

卒業以来半世紀が過ぎ、我々は古希という齢に達しております。両先生も米寿の域に達せられたとか。米寿と古希が集まれば、体型・風貌も似たようなもの、「誰が生徒か先生か」という雰囲気でした。それにしても、先生方のお元気なこと。大正生まれの気骨でしょうか。

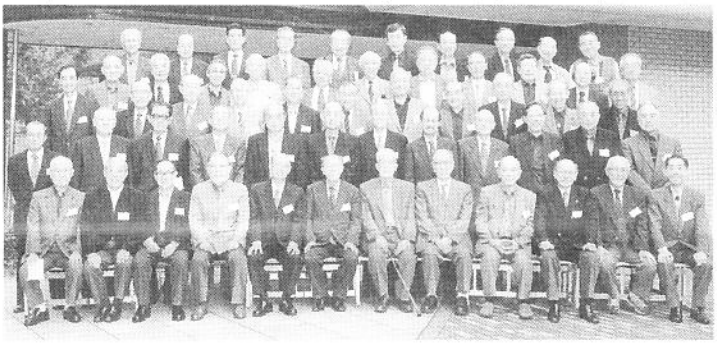
同期生の中には、卒業以来の再会という人も多く、名前と顔が一致しないという様子もありましたが、それは束の間のことで、すぐにあの頃の中学・高校生に戻り、在校中の思い出話や卒業以来五十年の人生経験を楽しく語り合いました。

宴の終わりには、手崎先生から、ご執筆中の著書「万葉集防人の歌」に関する講演があり、我々生徒一同は久し振りに先生の名調子のお話に聞き入りました。

残念なことは、病気その他の事情で出席できないという方が多いことです。この同期会を契機に、そういう人々を含めて連携を深め、互いに励ましあっていきたいと念じております。

「楽しげに　米寿を囲む　古希の顔」

幹事世話人 佐藤 健



十三回生同期会、今年は九月六日開催

野中雄介（高校十三回）

十三回生同期会は卒業二十年目を機に、五年ごとに開催してきましたが、「毎年開催してほしい」との要望があり、二〇〇二年から毎年開催することになりました。

その毎年開催の第一回目が昨年の七月十三日で、青山の「あおしま」で開催し、六十数名が出席し先生も多数出席されました。今年は九月六日（土）に同じ会場で開催の予定です。

昼の十二時頃から夕方の五時頃まで延々五時間、お喋りと料理、お酒を楽しむのが十三回生の同期会です。それでも二次会三次会があるからまだまだ元気な十三回生です。

※1Aクラス会が六日（日）プリンスホテルで行われました。テレビ東京の取材が入って、十月十五日の五時半頃のニュースで放映されたそうです。全部で三十五（寺島先生含む）名が参加しました。

13回生幹事は野中雄介
108-0074 港区高輪1-11-2
Tel03-3441-1530 Fax03-3441-1559
携帯／090-3420-0179
E-mail:pr-nova.nonaka@nifty.com
今年の会費は八千円（当日のパーティ代、通信費、写真代含む）の予定です。

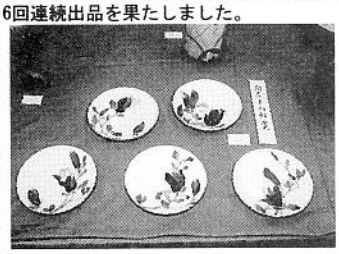
十三回生還暦同期会番外編
「冥土の土産還暦記念富士登山」

都の西に鎮座し、我々に毎朝清き気を送る霊峰富士に登ろうではありませんか。昔から「富士登らぬバカ、二度登るバカ」といいます。登ったことのない方大募集！　という宣伝文句で集まった十三回生十二名（男性八名、女性四名）が昨年九月十四日深夜二時から富士山の頂上を目指しました。

ほとんどのメンバーが本格的な登山は初めてというパーティでしたが、強風、雨天という悪天候にもめげず十三時間の苦闘の末に男性六名、女性二名の十三回生が視界ゼロの富士山頂上にたどり着きました。この富士登山が切っ掛けで十三回生の登山熱は目下ますます上昇気味です。いや加熱気味かも。

TOPICS トピックス

日本の優れた伝統工芸の保存と発展を期し、現代の感性に即する創造性豊かな作品を作ることを目的とする「第43回　伝統工芸新作展」が4月22日～27日に日本橋三越本店7階ギャラリーで開催され，13回生で美術部出身の吉岡　順（旧姓・石崎）さんはこの新作展に染め付け絵皿の新作で6回連続出品を果たしました。



いつの間に
学び舎去りて三十余年
同窓会は玉手箱

矢竹（窪田）静恵（高校十八回）

ついに　待望の　石神井高校十八回生同期会　が発足しました。

平成十四年十一月三十日にその第一回同期会が開催されました。場所は新宿にある、ハイアットリージェンシーホテルでした。当日、用意されていた部屋は収容しきれないと言うことで、急遽、地下一階のバンケットルームに変更され、この同期会を待ちかねていた百三十名もの十八回生が、北から南から、ここに集ったのです。

そもそものきっかけは、今回の幹事の一人が、久しぶりに石神井高校の同窓会に出席した折り、「もっと多くの同期生に会いたい」と言う声を耳にしたことからです。その翌年、平成九年の本誌上で「高校十八回生、集まろう」と呼びかけました。それから五年後の昨年、同期会が実現されたのです。幹事の皆様ありがとう！

一九六六年に別れて以来、実に三十六年ぶりで会う友人たちは、長い歳月が多少とも容貌を変えてしまったにもかかわらず、再会の嬉しさが、長い空白を急ぎ修正するのか「すぐ分かったー」「変わらないわ！」の連発、楽しい会話が弾んでいました。テーブルに並んだたくさんのご馳走に箸をつける暇も惜しんで、恩師（ご多忙のところ青木慶子、亀崎正夫、水谷英一郎、三戸孝の各先生方にご出席いただきました。）や旧友たちを見つけては、昔話に花を咲かせ、あちこちで歓声が上がっていました。勿論、たった二時間では物足りず、この後、「二次会にも八十数名、三次会にも六十数名の方が参加」されたそうです。

私個人としては、実を言うと残念なことに、誰だか思い出せた人は思ったよりもわずかでしたし、相応に年輪を重ねた友人達、片思いの恋人達（複数？）との再会は、浦島太郎とまではいかなくても、多少のショックは否めませんでしたが。思えば、我ら戦後生まれのベビーブーマー、ゆりかごから墓場までの競争社会と騒がれ、毎年クラス替えがある大人数のすし詰め教室、と言う環境では、クラブ以外の友人たちとの関係が浅くなってしまったのはやむを得ない事かも知れませんね。にもかかわらず、石神井高校での生活は楽しかったと思います。何よりも自由で、おおらかだった、というのが私の印象です。学校行事を生徒会で決めてしまう生徒主導の学校自治や、それを温かく見守り補佐して下さる先生方に、入学したての一年生の頃は感激することしきりでした。たった一歳年長の先輩たちがすばらしく大人に見え、尊敬しました。石神井高校を卒業したということはいつまでも私の誇りです。

間違いなく、今回の同期会は大成功だったと思います。次回以降は、いつ開催されるのでしょう。先日皆様からいただいたアンケートの集計を基に、幹事の皆様が検討なさっていると思いますが、楽しみですね。今回おいでになれなかった方、次回は是非お顔を見せて下さいね。

卓球部OB会開催される

大久保　裕（高校三十三回）

平成十四年十一月十六日、亀崎・三井両先生をお迎えして石神井高校卓球部同窓会が開かれました。左の写真はその際のものです。

吹奏楽部、OBを交えて記念演奏会

ＯＢを中心とした往年のバンドの演奏も冴えました

“小社会”「石吹」
二十五回記念定期演奏会を通して

太田　晶（高五十三回　石吹三十二期）

この三月、保谷こもれびホールにて、石神井高校吹奏楽部の第二十五回定期演奏会が開かれました。私が現役二年生の時（平成十二年）定期演奏会が復活してから今回で四回目となります。

記念すべき第二十五回ということで石吹の卒業生で構成された記念楽団を結成し、顧問の高橋先生のご協力もいただいて三部構成の二部をまるまる発表の場とすることができました。記念楽団は大半が社会人でのため本番まで数回の練習しかできませんでしたが（出演者全員がそろったのは本番の時）今でも楽器・音楽を続けている人が多いためか想像以上に良い演奏ができたようで、聴きに来られた方々から大変ご好評いただきました。

今回の定期演奏会に参加して改めて感じたことは、出演者の年齢の幅の広さでした。十代から五十代まで様々な経験を持った人たちが集まっています。これは、まるでひとつの小さな「社会」ではないでしょうか？私はこの「社会」の中で現役の時から多くのことを学ばせていただきました。それは楽器や音楽に関してだけでは、りません。私の現役時代に復活した定期演奏会もＯＢ・ＯＧの方々の様々なご協力が、ったからこそ実現したものです。この小社会「石吹」は、社会勉強のできる最も身近な場所です。これからの現役生にも多くのものを吸収していってほしいと思います。

このように石吹は現役とＯＢ・ＯＧのつながりがとても深い部ですが、この四半世紀という長い間その関係を続けてこられたのは、お互いが、まり干渉せず、ほどよい距離を保ってきたからだと感じています。私もそれに習い、諸先輩のように年を重ねても楽器を続け、演奏会に参加できるようでありたいと感じました。

最後に、二十五年先の定期演奏会五十回記念と言わず、今回のような楽団を結成し演奏会が開ける機会ができることを願います。

第二十五回定期演奏会を終えて

吹奏楽部顧問　高橋　省司（本校数学科教諭）

石神井に赴任して三回目の演奏会となります。最初（第二十三回）は本校の多目的ホールから保谷こもれびホールに場所を移して初めての演奏会。自分たちの演奏のためにホールの舞台を踏むのは全員はじめてのこと。ホールの使い勝手どころか、演奏会開催に至るまでのプロセスやノウハウの知識はゼロに近い状態。そんな中、四苦八苦して開催に漕ぎつけました。お世辞にも観客が多かったとは言えませんが、演奏会ができたことだけで満足でした。

あれから二年、ようやく石吹らしいオリジナリティのある演奏会ができたと思います。企画、演出、練習計画から運営に至るまで、部長の山口達郎、副部長の森田節子、森田千里を筆頭に、部員主導で本当によく頑張ってくれました。さらに周辺校への案内や広告依頼、楽器や楽譜の借用、印刷会社へのパンフレット注文など目立たぬところでの努力も多岐にわたっていたことを付記させていただきます。

吹奏楽部は「現役第一主義」を謳い、練習面、運営面とも部員自らの力で推進することを方針としております。部員数はここ数年三十人台前半を維持しておりますが決して多いとは言えません。少しでも部活動の参加人数が減れば練習に支障をきたします。それ故の苦悩や人間関係の構築など、日々の課題は山積みです。しかし、それらを通して部員は確実に大きな成長しています。

最後になりましたが、今回の演奏会は数多くのＯＢ・ＯＧの方々のご協力無くして成功は有り得ませんでした。同窓会総会や東京校歌祭など、ＯＢ・ＯＧの方々、ひいては同窓会の皆様との関係は今後より一層堅固なものになっていくことが必要です。これからも吹奏楽部へのご指導・ご声援のほどをよろしくお願い申し上げます。

熱気あふれる現役生の演奏もすてきでした。

結婚式をあげました！

新堀美緒（旧姓・藤枝　高校二十回）

【ウエディングドレスを着たい】というつぶやきを、同期会幹事の勝見さんが見事実現してくれました。

それは、新郎四月五日、新婦四月七日誕生日の真中の四月六日桜の満開の日に、同窓会の先輩城さんのお店、青山にある「レストランあおしま」で行われました。

総勢五十五人の友人・家族らが集い、新郎の友人の牧師さんのおかげで、恥ずかしながら皆様の前で式を挙げることできました。

レストラン手作りのウエディングケーキの前に大勢のカメラの砲列で、まるで芸能人になったみたい。

またやりたいと言ったら、方々からしっかり叱られました（主人に特に）

途中、城夫妻も飛び入りで参加して、奥様（元宝塚）の『愛の賛歌』の熱唱で会場はその後の「名前ビンゴ」大会含めて盛り上がり。カメラマンも後輩の板谷さんが勤め、全て手づくりの楽しいお披露目会になりました。

まったく石神井同窓会、恐るべしです。

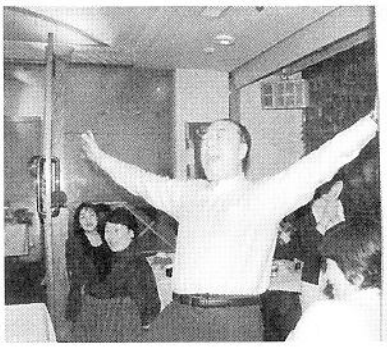
同級生に干ール！

青木俊明（高校二十回）

去る四月六日旧姓藤枝美緒さんの「新堀家の結婚お披露目会」が先輩城氏の経営する青山一丁目のレストラン「あおしま」にて、なつかしい一年A組の仲間を中心に総勢六十名ぐらいの見守るなかで行われました。五十三歳同士の再婚カップルで、新郎善広氏は二人のお子さん、新婦美緒さんは三人のお子さんをお持ちとの事。美緒さんの特徴である大きく、丸い顔、小柄で頑健そうな体に満面の笑みをたたえながら堂々たるビッグママ振りを披露していましたが、さすがにお子さんの家族愛あふれるお祝いと感謝のスピーチには涙が幾筋かあふれていました。

私も思わず美緒さんの心情を思いはかって感動し、ちょっぴり涙し、間髪いれず後楽園球場でならしたエールを叫んでいました。ニュー新堀家のメンバーと三次会まで飲みまくったのは、言うまでもありません。

遅れましたが報告します、私も再婚です、ちなみにお披露目会はまだ開いていません。



突撃おじゃま虫

勝見鈴代（副会長・高校二十回）

同期会があるらしい・・・こんなニュースを聞くと、私こと「同窓会のおじゃま虫」としてはうずうずして、顔を出さずにはいられないのです。

先日も、第十八回の同期会にちゃっかりおじゃまして、同窓会の実情をお話しさせて頂きました。その中のお二人が、「何年も同窓会費を払ってなかったから・・」とその場で何年分かをいただき、さらに黒菱山荘基金のご寄付まで！　そんなつもりではなかったのですが・・。

少しでも多くの同窓生に、同窓会の実情をご理解いただきたい一心で、同期会の折りに同窓会の広報活動を行っております。同期会の席に、ほんのちょっとお邪魔させていただくことがありましたら、どうぞよろしく！

第１１回東京校歌祭のご案内

本年も、同窓会行事として、第１１回東京校歌祭に参加いたします。　大きな舞台で、我が「石神井高校」の校歌を歌いましょう。　ブラスバンドの伴奏、現役応援団の参加も予定しています。数多くの参加をお願い致します。

＊日時　　平成15年10月4日（土）12:30から
＊会場　　都立日比谷高校　内　星陵会館
　　（地下鉄赤坂見付　徒歩７分）

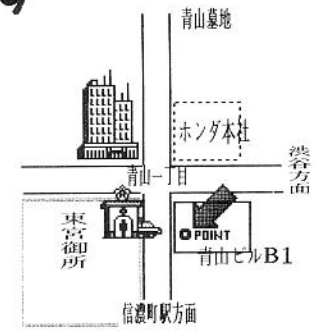
ご注意：会場は日比谷公会堂ではありません！

＊問合せ　　石神井高校同窓会ホームページ
又は　高橋一夫　　FAX03-3991-3586　まで

石神井倶楽部で楽しいお集まりを
100名様迄の同期会をサポートします

飯田橋支店『霜月好日』が新規開店
土日祭日も営業中・結婚式二次会もOK！　☎03-3512-8500
（ホテル　エドモントンのアイガーデン　テラス2Fにオープン）

☎03-3403-3461　都内　8店直営
in あおしま　青山店　社長　城　和裕（12期生）
港区北青山1-2-3（青山ビルB1）地下鉄青山一丁目駅0番出口前　店長　小田由行（土日祭日貸切可）



OB・OG を訪ねて

楓　千里さん

（旧姓・新山・高校26回）
現ＪＴＢ「旅」編集長

楓さんは、石神井高校卒業後学習院法学部を経て、ＪＴＢ（旧・日本交通公社）へ入社。以後、主として出版事業局で「るるぶ」などの編集や広告業務に携さわられました。現在は、まもなく創刊八十周年を迎える旅行関係の名門誌、「旅」の編集長をつとめています。現役時代は、黒菱山荘ＯＧとして山荘に入っていたとのこと。現役時代や黒菱山荘の思い出などをお聞きしました。

（聞き手：板谷）

――「旅」を紹介するお仕事につかれたきっかけは？

もう二十五年前になりますが、当時は大卒女子の就職は非常に大変でした。進路として出版関係を志望していたのですが、日本交通公社に入社でき、運良く出版事業局に配属されてから本格的に「旅の本」の世界に深く関わるようになりました。

高校時代は、ＥＳＳ（英語研究会）に属していましたが、当時の石神井生がそうであったように、夏山教室や冬のスキー教室で黒菱山荘のお世話になり、いわゆるアウトドア活動の洗礼を受けました。

仕事柄、国内外の多くの場所を訪れましたが、大糸線の素晴らしい車窓風景は今でも私の最も好きな風景の一つですね。

――黒菱山荘について一言

高校卒業後、そのまま山荘ＯＧとして二年間、山荘生活を経験しました。今は現役生の利用がなくなってしまったそうですが、当時は大変な人気で、夜などは文字通りすし詰めでしたね。そんな状態ですから、現役生のお世話も大変な忙しさでしたけれど、多くのＯＢや先生方と楽しい思い出を残すことができました。

高校生の利用が少なくなってしまったことは淋しいですが、卒業生・同窓生ももっと利用できるのではないでしょうか？最近は中高年の方が山に行かれることが多くなり、黒菱山荘の利用価値は高まったと思いますが、単に縦走の拠点にするだけでなくもっと広い楽しみ方があると思うのです。ＯＢの石田さん（高校十六回）は、現在白馬で山岳ガイドとして活躍されていますが、白馬の自然を紹介するネーチャーガイドとしてのサービスもされています。単に山に登るだけでなく、ゆっくりと高山植物や山の気象などの「自然」を解説しながら、自然探勝の楽しさを広めていらっしゃいます。自然を楽しむトレッキングは、登山派以外の多くの五十代六十代の方々にも楽しんでいただけますから、黒菱山荘はこういった世代の同窓生の方々にも利用していただけるようになると良いのではないでしょうか。登山やスキーだけでなく、自然を楽しむ活動には、白馬は素晴らしいロケーションだと思います。

――最後に今の高校生に向けてひとことをお願いします。

私自身は子供がいないので、今の高校生と接点がほとんどありませんが、若い方全般にはぜひ、「ひとり旅」をして欲しいな、と思います。

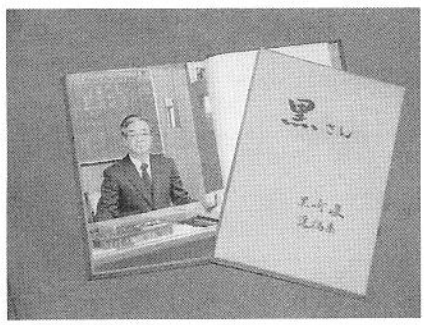
高校生では「ひとり旅」は少々難しいと思いますが、卒業してから、また大学生になったら、ひとりだけで旅をして得られるものが多いのではないでしょうか。若い人たちが人との接し方を学ぶ機会が少なくなっているとよくいわれますが、ひとりの旅は、ちょっとした事でも挨拶やお願いをしなくてはなりません。必然的に多くの人たちと接することを学ぶことになりますね。もちろん、旅行には危険がつきもので、特に海外ではいまだにリスクがありますが、その危険をしっかり回避することも、必要な勉強のひとつにではないでしょうか。

――ありがとうございました。何かの折りに、黒菱などでご一緒したいですね。

黒さん「黒崎峻遺稿集」発刊

平成十三年十二月十七日、肝機能不全のため亡くなられた黒崎　峻先生の遺稿集が自費出版されました。書名は「黒さん」です。生前のニックネームがそのまま書名になりました。内容は詩・歌、紀行文、創作、随想などの他、黒菱山荘建設の経緯や山岳部顧問時代の山行記録などです。

発行者は黒崎昭子夫人で、ご希望の方にお送りするそうです。ご希望の方は、下記の住所にお申し込みください。なお、送料五百円は負担していただきます。



申込先／〒203-0041
東京都東久留米市野火止3-14-10
黒崎昭子

黒崎先生遺稿集は小生が本作りをしましたが、別途、先生の山岳アルバムを復刻する作業も進んでいます。

先生は山岳写真を撮影するだけでなく，ご自分で現像焼き付けしてアルバムを作成し、詳細なコメントを付けていました。もっとも中には裏焼きの絶品もあり、復刻作業に従事する山岳部ＯＢが目を白黒させるシーンもあります。

山岳アルバム復刻版が完成したらまたお知らせします。

野中雄介（高校13回）

2003年黒菱山荘基金中間報告書

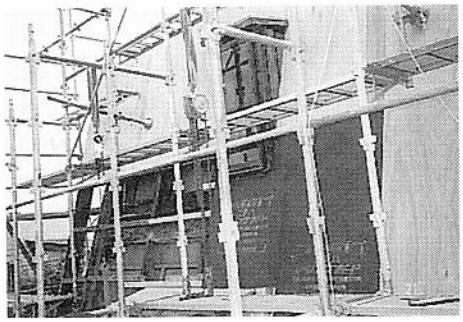
平成15年4月20日現在　12期生 城 和裕

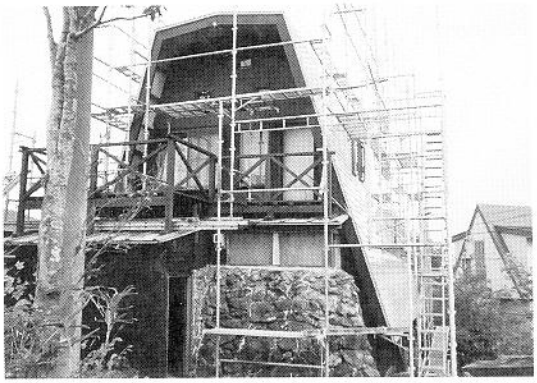
基金に送金下さった皆様のお蔭様で黒菱山荘もこの度大改装を実行することが出来ました。
今までトイレが汲み取り式で評判が悪かったのですが約コップ一杯の水量で使用出来る新型ウオッシュレット機能付の2基のトイレの設置工事から始まり平成14年秋の大屋根の大規模な改修工事を20期生の野村みさ子一級建築士の管理指導を受け現地の金森工務店の施工で無事済ませる事が出来ました。、その結果、冬暖かくて雨漏りのない立派な山荘に生まれ変わり、外観は一際目立つ落ち着いたマスタードイエローのカラー焼付長尺鉄板を横に平葺きしたので大屋根が周囲に一際映えてまるで新築のように見えます。
窓のサッシや内部の扉まわりも交換、手入れをしましたので居住性は格段に改善されました。
取り敢えず今まで苦労した屋根のペンキ塗りの心配は無くなりました。
是非一度我等の山荘に皆様でお出掛け下さい。
なお黒菱山荘基金の収支は平成15年 4月21日現在拠出した金額と残高の明細は以下の通り。

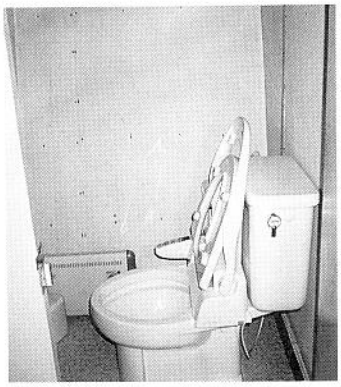
①新型水洗式ウォッシュレットトイレ2台㈱長野エヌケイ機工　¥452,550-
②大屋根工事及び窓枠サッシ工事他の拠出金　¥2,400,000-
　振込手数料　¥820-
③平成15年4月20日現在の口座残高　¥147,391-
④応募総数　約400名　総基金合計額　¥3,000,761-

尚この基金は今後の黒菱山荘を維持改修して行くため継続して参りたいと存じます。
今回の改修工事にかかわる経費として同窓会会計より150万の立替金も有りますし、将来的にも内装設備や足回り、水回りやトイレの浄化槽等でまだまだ資金をを必要としておりますので広く同窓会の皆さんのご協力をお願いしたいと考えます。

⑤応募者名簿の詳細は『きずな』の紙面では限りが有りますので同窓会のインターネットの中に御氏名、卒業期、振込日付、金額等を表示させて戴きます事をご了解下さい。







山荘工事時の写真および新設されたトイレ

黒菱山荘の屋根改修工事が完了しました

浦川　伸一（副会長・高校三十二回）

早いもので、黒菱山荘が建設されてから四十二年。その間、長野県の北アルプスのど真ん中で特に大きな補修工事をすることもなく、風雪に耐えてきました。それでもここ数年は、雨漏りをはじめ、いろいろ部分補修では補いきれない状況となっていました。

近年は、スキー部やハイキング同好会など、現役の高校生の利用や父母と教師の会、同窓会ツアーなど、その利用者数は衰えることなく、コンスタントに毎年三百泊以上の利用もいただいております。それだけに屋根などの早期改修が望まれていました。

今回の改修工事は、屋根の全面吹き替えが中心でした。これまで同様、青空に映える黄色い屋根で一新されました。そのほか灯油タンクの設置やドアの交換なども行いました。これによりこれまで頻繁に発生していた雨漏りが完全に止まり、断熱性も向上、大変快適な山荘生活を送れるようになりました。

昭和三十六年に建築された黒菱山荘ですが、大きな改修工事を行うのは、今回が初めてです。諸先輩の方々が丁寧にメンテナンスしてきてくれた賜物と考えています。

同窓会では、きずなでもご紹介したように、平成十一年に黒菱山荘基金をスタートさせ、たくさんの方々から暖かい寄付金をいただいてまいりました。ご寄付いただいた各位に対して、紙面をお借りしてお礼申し上げます。ただ、基金総額は今回の改修工事代金にまだ届いておらず、一時的に同窓会より借り入れさせていただいておりますので、引き続き皆様のご厚意をお願いしたいと存じます。

黒菱山荘は、石神井生が訪れ、代々引き継がれていく状態が保たれてこそ、その意義があるのだと考えています。高校生や大学生など、若い世代の利用は減りはしたものの、今も続いております。今回の改修により、小屋は見違えるくらいきれいに生まれ変わりました。これを機に、是非とも足を運んでみてはいかがでしょうか。

黒菱山荘とともに

石田　弘行（高校十六回）

昭和三十六年七月「石神井高校黒菱山荘落成」。その年の四月に石神井高校入学というより山岳部に入ったボクは初めて黒菱山荘との運命の出会い？をしました。山荘初の林間学校が始まったものの、異常気象で山荘前の水場（当時は自然流水を利用していた）が枯渇し、離れた水場からの水運びのために山岳部が合宿を返上し、応援に駆けつけたのでした。

山荘のＯＢ要員として、現役での大学入学を勧められ、大学四年間は年間百二十日以上山荘生活をし、社会人の第一歩は山荘のある白馬の観光開発会社就職でした。今もその延長線上で生きながらえ、八方尾根の山麓で小さな宿を営んでいます。「黒菱山荘」にかかわったという原点がボクの人生の、生活の糧となったのです。山荘は今年で四十二年目を迎えます。

現在の山荘運営は、学校、ＰＴＡ，同窓会三者の理解を得、奉仕の精神で献身的に携わってくれる山荘運営委員会の数名のメンバーによって支えられています。昨年は懸案であった屋根の葺き替え工事をおこない、以前にも増す頑健さを再生させ、今後の活用のあり方が焦点となってきたように感じています。

聞くところによると、ある年の職員会議の席上で生徒の山荘利用についての審議があり、たった一票の差で生徒の山荘利用（林間学校、スキー教室）の仕組みが廃止されてしまったそうです。爾来生徒が学校の行事として公式に山荘を利用する手立てを失ってしまいました。当時それなりの理由があったにしても悲しむべき悔いの残る決定だったのではないでしょうか。

現役高校生の利用がなくなったことにより、ＯＢ（先輩）が生徒（後輩）の面倒を見、指導するという石神井独特の伝統と規律による山荘の管理運営方式も大きく変化してしまいました。

それでもかろうじて建物を守る気持ちだけは受継がれ、四十年間磨き上げられた階段や机の黒光りはそれだけで無言の教育的効果を示しているはずです。

石神井高校の永い歴史の中で、山荘は、確かな手ごたえのある石神井生にとってのシンボルでした。いや今もって存在感のあるシンボルに他なりません。

何とかその使命を蘇らせたいのです。

現代の高校生にとって、都会育ちの石神井高生にとって、これほど価値のある、自然体験の場所としてふさわしい施設はあり得ないのではないでしょうか？しかもそれは、我が石神井同窓生が汗と時間を費やした結晶でもあるのです。

実はその事を一番肌で感じ、暖かく見守っていて下さる方がいらっしゃいます。それは山荘の建設当初から一貫して親身に黒菱山荘を支えてくださっている、地元の対岳館丸山家三代（與兵衛さん・庄司さん、徹也さん）に亘るお力添えです。ことに、庄司さんは全日本スキー連盟専務理事という要職にありながら、いつもこちらが恐縮するほど石神井高校を我が事のように気に掛けておられます。地元八方に山荘を持つ石神井を誇りにさえ感じて下さっているのです。

無報酬でお引き受け戴いている地元保証人、山荘維持のためのご尽力は並み大抵なことではありません。これからも感謝の気持ちと畏敬の念は、肝に銘じ忘れてはならない大切なことです。

或る日、人気のない山荘に佇んだ時、走馬灯のように山荘にかかわった多くの同窓の仲間達の顔が浮かび、そして声が聞こえてきました・・・・・・・・・・・。

「もったいないよ、何とかしようよ」

校長先生はじめ、今の石神井高校を担う先生方、父兄のみなさん、山荘を知らない同窓生、そして他の誰よりも山荘に育てられた卒業生、生徒諸君・・・・・。

本当にたくさんの人の耳に届いてほしい熱い声でした。

（石田　弘行　グローブインスカラ自営、白馬山案内人組合・北アルプス北部山岳遭難防止対策協議会・山岳救助隊　所属）

対岳館・丸山庄司さんは、昨年、永年にわたる白馬岳・八方尾根の自然環境保護の業績から、環境大臣賞を受賞されました。

「2003年夏　第5回黒菱山荘」ツアー参加者募集のご案内！！

昨年、山荘の屋根改修を施工しました。是非この機会にピッカピッカの山荘へ行ってみませんか？本年も同窓会の後援を得て、下記のツアーを企画しましたので、友人、家族、ご夫婦、一人旅など多数ご参加ください。

黒菱山荘に泊まり、白馬山麓を散策しましょう。

山荘では、素晴らしい星空を見ることもできますし、健脚の方は唐松岳登山もお奨めです。

1．出発日　7月25日（金）～7月27日（日）　2泊3日
2．行程　　1日目　東京（新宿）→白馬駅→ペンション泊
　　2日目　登山・散策→黒菱山荘泊
　　3日目　午後または夕刻帰京
3．会費　　ＪＲ利用　　30,000円程度（JR特急利用）
　　マイカーまたは現地集合　17,000円程度（マイカーで現地）
4．内容　　2泊3日
　　ペンション(名称スカラ　ＯＢ経営)、黒菱山荘、各1泊
5．主な見どころ
　　石神井ケルン、八方池、唐松岳、白馬三山、ジャンプ台
　　高山植物、八方温泉、
6．催行人員　　２０名

旅行条件
- ＊　山歩きの装備でご参加下さい。
　　特に靴（はきなれたもの）、帽子、着替え、防寒、洗面具、常備薬など
- ＊　山荘滞在中は、掃除、食事作り、共同作業、団体行動となりますので、ご理解とご協力をお願いします。
- ＊　部屋割りは幹事にお任せ願います。
- ＊　会費には、個人的に消費するするものは、含まれておりません。
- ＊　集合場所、時刻、最終行程表などは、お申し込み後、詳しくご案内します。
- ＊　学校行事が入った場合は、日程を換えることがあります。
- ＊　お申し込みは6月末日まで（先着順とさせていただきます）

お申込み//お問合せ
〒176-0002 練馬区桜台４－１１－２　高橋一夫（高20回）
メール　dennsha007@hotmail.com
FAX　03-3991-3586

☆山荘の利用方法

山荘の管理は、黒菱山荘委員会が行っています。以下の利用規程についてご理解の上お申し込みください。利用資格　石神井高校生（ただし保護者の同伴が必要）・ＰＴＡ会員・同窓会員・教員・その同伴者

宿泊費　社会人二千円　学生千円

期間は夏休み期間中、年末年始およびスキーシーズンなどに利用期間を設定します。

☆利用申し込みの手順

① 先ず大体の日程、人数等をお問い合わせ戴くことをお勧めします。
※連絡問いあわせ先『黒菱山荘委員会　03-3385-8996(FAX共)泉水まで』当日の小屋番の有無、申込み状況、山荘概況等をお伝え出来ます。
② 所定の申込み書にてお申し込み下さい。※正確にお書き下さい。特に卒業生・一般の区分、社会人・学生の区分、宿泊日・日数等を明記下さい。
③ 申込みから一週間を目安に宿泊費を指定口座に入金して下さい。入金が確認されませんと現地で宿泊をお断りする場合がありますので御注意下さい。振込用紙の控えは、当日山荘で入荘時に小屋番が提示をお願いする場合がありますので、大切に保管の上当日携帯して下さい。
「指定口座　郵便貯金10130-5-5812331
都立石神井高校黒菱山荘委員会　浦川　伸一」
④ 申込書を受理し入金が確認されますと、折り返し『山荘利用のしおり』をお送りします。ＦＡＸ連絡が可能な方にはＦＡＸで、その他の方には郵送で少なくとも入荘一週間前までに送付します。万一期日までにお手元に届いていない場合は御連絡御確認下さい。

2002年同窓会 この一年

振り返ってみると、2002年から2003年へ、同窓会は盛りだくさんの行事がありましたねえ。25000人の規模の同窓会なので、さらに参加者が増えるとうれしいのですけれど・・

▲楽しい懇親会。今年は何人参加かな？

▲同窓会総会、重要な会議です。

▲懇親会は楽しく。
みんな石神井の仲間です

▼校歌祭は現役生の応援で大盛況でした

▲黒菱山荘の管理をお願いしている対岳館丸山さんを囲んで

▲体育祭の観覧、本当にご苦労様です

▲お天気に恵まれなかったけれど、楽しかった同窓会の黒菱山荘ツアー。今年も実施します。

▲今年は野球部の応援で、神宮にも集まりましたねフェンスでよく見えませんが・・

▲2003年の卒業式。ちょっとカルチャーギャップも感じられましたが。

同窓会誌「きずな」第52号　平成15年5月発行
発行人　同窓会長　林　弘
発行所　都立石神井高校同窓会
東京都練馬区関町北4-32-4
印刷所　株式会社文明社　東京都新宿区榎町79番
Tel 03-3203-6617

今年の編集スタッフ

板谷方彦（27回）　高橋一夫（20回）　佐藤 健（高3回）
勝見鈴代（別所）（20回）　写真：道家正昭（21回）

ご連絡先　E-mail amjack@shakujii-club.gr.jp
また、石神井倶楽部
〒1640002 中野区上高田1-14-7 青島本部内
Tel/fax 03-3319-1122
※母校にご連絡されても担当が居りませんので、上記にご連絡ください。

編集後記

言うべき言葉が見つからないほど、惨憺たるスケジュール。その上、写真満載にしたら、なんという人の数。

しかし気がつけば、我が同窓会はずいぶん盛んに活動しているということですね。話題には事欠かなくなりました。（いた）

http://www.shakujii-club.gr.jp
ホームページは好評継続中！
行事写真なども迅速に公開しています。